第 16 男女共同参画フォーラム in 大分 演題_抄録

日本眼科医会の男女共同参画

―医会活動に女性が関わる意義―

（ダイバーシティ推進に向けて）

公益社団法人日本眼科医会
会長　白根雅子

【抄録】

日本眼科医会（以下、本会）は、眼科を専門とするほぼ全ての医師約 15,000 名が加入しており、日本眼科学会（以下、学会）と両輪で医療を推進している。

人口減少を背景に医療環境の変化は加速しており、私たちにはしなやかな対応力が求められている。本会では、様々な立場の女性医師を積極的に登用しており、女性の割合は役員では 23%、代議員では 15%となっている。それにより会務に多様な視点が入り、諸課題の迅速な解決と柔軟な事業展開につながっている。

眼科は女性が 41%を占め、その 65%が勤務医である。女性の勤務医のうち、病院に所属しているものは 6 割にとどまり、これが基幹病院の眼科医不足の要因の一つとなっている。間近に迫る医師の働き方改革を乗り切るには、学会と協力して女性がキャリアアップできる環境を提供するとともに、性差や立場を超えて一丸となって「医療の発展」と「医師の well being」を両立させる努力が求められている。このため、本会では、2021 年に「男女共同参画」を「ダイバーシティ推進」へと脱皮させ、学会と連携して取り組みを始めた。本会の試みが、各地、各診療科の活動の一助となれば幸いである。

悠遠の男女共同参画 - 苦悩する心臓血管外科医

大分大学心臓血管外科
宮本伸二

心臓血管外科は急患も多く間違いなく現在でもブラック診療科である。医師全体の数の増加に伴い心臓血管外科医も増えているが手術症例数も同じ割合で増加しているため依然ブラック状態は変わらない。そのためもあって 15 年で女性心臓血管外科医は 5 倍以上に増えているものの女性医師の割合は 6%と外科の中でも依然低い。忙しさに影響する因子として医師自身は手術による負荷は問題としておらず、手術以外の特に術後管理に要する時間を負担と考えているため学会は ICU 術後管理のタスクシフティングを推進している。学会活動に関する男女参画は外科学全体でまだすすんでおらず 2020 年の時点で女性評議員は徐々に増加傾向にあるものの女性理事が存在するのは日本外科学会のみであり、心臓血管外科学会も含めて関連学会には未だいない。女性医師の就業率低下に対して学会が直接できることはほとんどなく病院、上司の意識改革を啓蒙するしかない。私は血管外科学会ダイバーシティ委員会委員長として女性医師間のネットワークづくりを目指している。密度の少ない女性心臓血管外科医どうしを出合わせる機会を学会主導で設けることで情報共有、ストレス軽減につながるのではないかと期待している。女性医師数が増加することで女性医師をもつ男性医師が増えてくる。女性医師が少ない心臓血管外科においてマイナーな女性医師をサポートする以外にも女性医師もしくは働く妻を持つ男性医師への配慮が今後より必要となってくる。結婚、出産、子育ては医師としてもっとも忙しく、大切な時期とも重なり個々のキャリアアップと家庭の維持を上司として一緒に考えていかなくてはならない。考えれば考えるほど胃が痛くなるが致し方ない。

男女参画を推進するには制度、意識改革に加え、生殖医療、ロボット（AI）技術、ICT など科学技術開発・導入が今後有力だと考えられる。大分県ではコミュニケーションアプリ JOIN の導入を進めている。これは LINE と同様のチャット機能と CT 等の DICOM 画像を施設間で共有できるというもので、スマートフォンがあればどこでも情報共有できる。情報セキュリティ機能に優れ医療用に開発・認可されている。これを用いて診療科内、多職種との情報共有を行うと情報伝達時間が短縮され、実際に人間が移動することなく的確な判断、指示が行われるため登院回数も減らすことができる。このような ICT の積極的な利用が働き方改革には不可欠であり、男女共同参画推進にもつながっていくものと考える。

報　告

抄録原稿【報告】

男女共同参画委員会（越智委員長）
男女共同参画委員会は平成１０年に設置された女性会員懇談会が前身であり、女性医師の支援からスタートしたが、現在では男女ともに働きやすい環境づくりを主眼に活動している。委員会の主な活動は①諮問への答申、②男女共同参画フォーラム企画への意見具申、③『ドクタラーゼ』の「医師の働き方を考えるコーナー」企画立案、④調査、⑤制度の整備である。今期は諮問「地域における男女共同参画の推進」について議論を続けてきた。女性の医師会への加入は増加傾向にあるが、方針決定過程に参画する女性は未だ少ない。まずは地域の医師会において活動する女性を増やし、男女共同参画を実現することで男女ともに全ての医師が働きやすい医療界を目指したい。

女性医師支援センター（神村常任理事）
女性医師支援センター事業は、平成 18 年に厚生労働省からの委託を受けて始まった「医師再就業支援事業」から「女性医師支援センター事業」へと変遷し、現在に至っている。本事業は、平成 19 年に開設した「女性医師バンク」の運営を中核事業とし、女性医師がキャリアを継続するために一人一人のライフステージにあった就業先や研修先の紹介を行うと同時に医師の多様な働き方を支援するための情報発信をホームページやハンドブックを通じ行っている。

シンポジウム 1

『　わたしのベストポジション～ドイツからはじまる七転び八起き～　』

中津市立中津市民病院　心臓血管外科
医長　漆野　恵子

【抄録】

2002 年に卒業し心臓血管外科を志しました。外科系に女性医師の存在が少なかった当時、とりあえず 5 年間は辞めずに頑張ろうと思い入局を決めましたが、今年で 20 年目を迎えようとしています。
この 20 年間には実に様々な経験をしてきました。二人の子育てをしながらの勤務、ドイツへの臨床留学、さまざまな背景を持つ人々と出会い、ともに学び、仕事をし、その間に闘病もしました。心臓血管外科を離れた時期もあります。紆余曲折ありましたが、20 年目のいま心臓の術野に立ち続けている、たくさんの大切な人たちとの邂逅により道を灯してもらっています。私の歩いてきた道は、決して成功の道とはいえません、でももしかしたら、きらきらとした成功談と同じように、これから歩き始める方々の興味を引くかもしれません。男性、女性を意識したことは幸いこれまであまりありません。ただ自分の生きやすい、働きやすいベストポジションを探してきたそれだけに尽きる気がします。
フロアからもご気軽にご質問やテーマを頂き、楽しい座談会になればと考えています。
　よろしくお願いいたします。

シンポジウム 2

「オール大分女性医師復帰支援への取組と必要性について」

大分大学　学長特命補佐（ダイバーシティ担当）
医学部医学生物学　教授
女性医療人キャリア支援センター　センター長
松浦　恵子

【抄録】

大分大学は 2010 年（平成 22 年）に男女共同参画推進本部ができ、附属病院に 2014 年（平成 26 年）に女性医療人キャリア支援センターが設立されてから、実質的な支援が開始されることになった。

今回、（１）大学での活動、医師会との連携、県全体への波及を目指した取り組みを紹介する。

（２）医学部では 1 年生での男女共同参画講義、4 年生でのキャリア教育の日、5 年生での女子学生と女性医師との交流会、女性医師医同士の交流会、そして男性医療人によるパパの会などがある。これらの教育や交流会の姿とともに、若い医療人や学生の意識、不安などアンケート等から見える化だいについて述べる。

以上より、今後私たちが取り生まなければならない女性・男性を含む医師のキャリア支援の重要性を再度認識したい。